

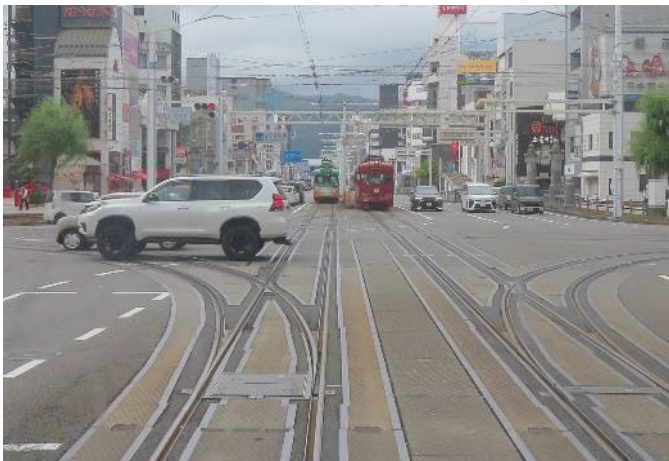
「高知紀行 (4)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

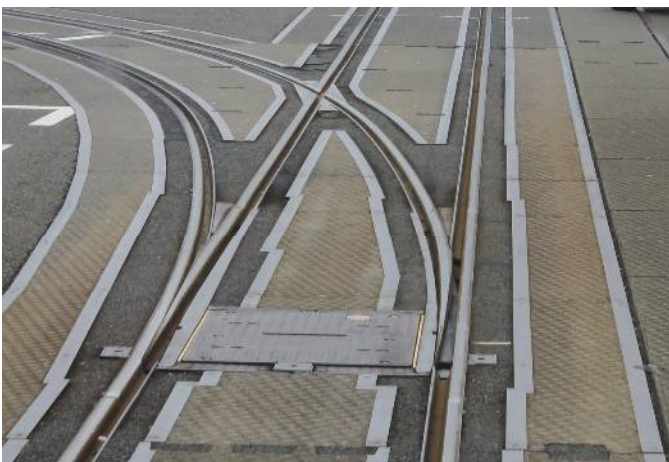
田中 千尋 Chihiro Tanaka



この車内のレトロ感がすばらしいです。こういう電車が現役でがんばっていることを嬉しく思いました。



はりまや橋の電停ではいくつかの系統が交叉しています。遠くに見える緑の電車は、左から来て手前に来る系統なのですが、直接切るポイントがないので、何とスイッチバックして線路を乗り換えます。



通常の鉄道とちがって、路面電車のポイント（転轍

器）は、自動では切り替わりません。定位は「直線側」で、何もしないで通過すれば電車はまっすぐ進みます。側方に行きたい場合は、ポイント手前で一旦停止すると、切り替わる仕組みになっています。



電車は高知駅前に到着しました。高知駅に突っ込むように、近くまで行ってくれます。



これから乗る列車は、特急あしずり7号です。あしずり号は高知から土讃線を走り、窪川駅から「土佐くろしお鉄道」に直通して、宿毛駅（すくもえき）まで走っています。



高知駅は高架駅ですが、電車は走っていません。すべて気動車（ディーゼルカー）です。特急は2両や4



両もありますが、普通列車は1両が多いです。



こちらは特急「南風号（なんぷうごう）」岡山から瀬戸大橋を渡ってきた直通列車です。これも電車特急ではなく気動車特急です。四国では珍しい4両編成（長編成）の特急列車です。



あしずり7号は、私が乗った時はガラガラでしたが、南風から乗り換えのお客さんがゾロゾロ乗ってきて、結構な乗車率になって出発しました。



熱帯低気圧と前線の影響で、高知の天気はあまり良くありませんでした。土讃線は田園地帯の中を西に向かって進みます。関東地方よりも田植えの時期が早いのでしょう。稲はすでに青々としていました。



土讃線は土佐湾に沿って走ります。当然左車窓のほうが景色が良いので、私はあらかじめ左側の指定席をとっておきました。2両編成のうち、指定席は1号車の「半分だけ」で、しかも自由席も途中からガラガラになってしまいました。



天気は良くありませんでしたが、海岸の風景には満足しました。晴れていたら、さぞすばらしい車窓景観だったでしょうね。



窪川に停車します。ここで「土佐くろしお鉄道」と分岐します。第三セクターの鉄道で、窪川～中村～宿毛間を運営しています。特急はJR線からすべて直通しています。